

福祉サービス第三者評価 放課後児童健全育成事業版報告書 基本情報

①第三者評価機関名

株式会社ウエルビー

②施設・事業所情報

名称：清瀬市立十小児童クラブ	代表者氏名：主任 大場 まゆみ
所在地：東京都清瀬市中清戸1-454-14	TEL：042-493-4350
利用者数：44名	
〔施設・事業所の概要〕	
開設年月日：平成元年	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人子育てネットワーク・ピッコロ	
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：2名
専門職員	（専門職の名称）
	放課後児童支援員：3名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）

③理念・基本方針

〈理念〉

- 「こども」「保護者」「支援員」みんなが主役である。
- 子どもの発達段階に応じた主体的な遊びを通じて自主性、社会性、創造性を伸ばすことができるように支援をしていく
- 子どもを中心に保護者と支援員がともに考え、共有しながら一緒に子育てする場を運営する。
- 子どもが健やかに成長していくこと、異年齢のこどもたちや障害を持った子どもたちも一緒に生活し、どの子ども大切にされる育成をめざす。

〈基本方針〉

- ★子どもが自分の思いを出せる場であること。みんなが自分をさらけだしながら成長し合える場所であること。
- ★子ども同士で楽しく過ごせるように、サポートする。支援員は縁の下の力持ち子ども同士が主体性を持てるように手助けをする。
- ★各家庭の育児方針を受け止める。これが正解という育児はありません。各家庭の育児方法に耳を傾ける。
- ★事故を未然に防ぐために安全管理を徹底する。子どもも保護者も事故や怪我の心配をしなくても良い環境を整える。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・子どもが必要な時間クラブに通い続けるために、連携アドバイザー（作業療法士）の活用による指導及び相談支援の実施や、クラブ職員に対する勉強会・情報共有により子どもの様子で気になることを毎日記録をとり非常勤職員を含め育成支援のあり方を協議する。
- ・特に配慮が必要な児童の育成に対して集団生活を豊かに出来るよう一人ひとりを尊重した育成を実践している。
- ・子どもの安心・安全な生活及び遊びを保障出来る様に室内では自らの意思で事由に遊びを展開出来るよう机の配置など整備に努めている。
- ・将棋やボード、カードゲーム、うQ、レゴ、ドミノ、材料を使った遊びや、月ごとの制作活動は子どもの要望に出来る限り対応する様に職員間で協議する。
- ・イベントのない日以外はすべて「フリーデー」を導入。登所時よりおやつ・学習・宿題（親より指示）・遊びはすべて自分で時間管理出来る様に支援をすすめている。
- ・おやつは運営より提供されるもの以外に手作りおやつを4半期に1度位のペースで提供。異学年の集団により集団生活のルールやマナーは上級生が導けるように低学年のおかげで上級生は自立に繋がっている。
- ・44人と少人数ではあるが子どもが全員の名前を覚え声をかけあう姿には心惹かれるものがある。
- ・配慮が必要な子どもを集団遊びが円滑に進むよう支援員がついてルールを説明しながら見守る。
- ・保護者より子どもの様子について聞かれる場合、保護者の指定される時間で相談内容にお応え出来るよう努め保護者に寄り添う。
- ・今年度から有志の保護者主体で長期休暇中の仕出し弁当が始動。打ち合わせに土曜の育成室の提供やプリント配付の協力をする。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間 2022年9月	
受審回数（前回の受審時期）	

⑥総評

◇特に評価の高い点

- 毎月の指導計画や会議記録などがとてもしっかりと作成されています。とりわけ個別支援に関する記録が丁寧で、対応の仕方や保護者との関わり方などについて職員間での共有が図られています。また、所属している子どもたちのクラスの担任がわかるように顔写真を掲示したり、話をするきっかけを意識的に探すなど、学校との連携づくりに積極的に取り組んでいます。

◇改善を求められる点

- トイレなどの施設整備については職員の努力だけでは限りがありますが、子どもたちの生活環境にとってはその場の居心地の良さを左右する大きな課題と言えます。今回の自己評価における職員の気付きを大切にして、子どもたちの羞恥心にも配慮した改善が求められます。また、日常の子どもたち一人ひとりの様子をさらに保護者と共有できるように、写真などを活用した情報発信にも期待します。